

命の森を豊かにする。安心して暮らせるまちづくり分科会提言シート(3)
～介護とうまくつきあう～

【目標】

- 介護を受ける人も、介護をする人も、共に明るくくらすまち

【指標】

- 要支援・要介護認定を受けた人数
- 居宅介護を受ける介護認定者の全認定者に対する割合
- 介護施設（特養、老健、グループホーム）利用申し込みから利用開始までの平均日数
- 箕面市内介護サービス事業所・施設の第三者評価平均点数

【現状と課題】

介護は通常居宅で開始されますが、要介護度の進行、介護者の高齢化、核家族化、あるいは介護者の受ける過度のストレスなど様々な問題のため、その継続がしばしば困難になります。箕面市では認知症の増加や高齢化に伴い要介護者が年々増加すると推計されることから、その対応は益々重要となり、みんなが明るくいきいき暮らすためには社会が全体で取り組むべき課題となっています。

老年症候群と要介護状態への移行についての知識を拡げ、要介護度の悪化防止の上から居宅介護が施設入所介護に比べて優れていることの社会に理解を得る努力が続けられています。箕面市の調査では居宅での介護希望（40～50％）が施設での介護希望者より多くなっています。しかし居宅介護認定者の独居率は高く（22.7％）、介護をする家族の高齢化、あるいは虐待に繋がりがねない過度のストレスなどから継続が難しい状況がしばしば生じています。

介護に伴う各種の問題を個別に解決するため4箇所の地域包括支援センターが相談に応じ、介護保険によるものの他、高齢者福祉サービスを提供する体制は確立されていますが、それでも家族だけで継続することが難しい介護についてはその状況をよく理解し、介護場所選択の幅を拡げるなど丁寧な対応が求められます。

居宅介護だけでは解決出来ない事例が増加する現状を受け止め、「介護を受ける人も、介護をする人もともに明るく暮らすまち」を実現するために、保険者としての箕面市は介護サービス全体の種類や提供量とその質のあり方を、高齢化の進展など社会の変化も考慮して、幅広い視点で検討します。小規模多機能型居宅介護や各種有料老人ホームなどの整備や、グループホーム、通所・短期入所あるいは施設サービスの充実については民間事業者の活力を積極的に利用するなどの方法で取り組みます。

また介護サービス自体に支障となるような介護業務従事者不足の解決には、市民の協力を得て労働条件改善策を追究すると共に、地域の「支え合い」など市民の各種取り組みを支援します。

【取組】

1．老年症候群と要介護状態への進行についての知識と要介護度進行抑制の上での、居宅介護の重要性の理解を社会に広げます。

(1) 市民、事業者等がとりくむこと

- 老年症候群と介護についての理解を深め、ボランティアなどによる広域支援活動に加え、近隣の人たちによる「地域の支え」を広げます。

(2) 市民、事業者等が行政と協働でとりくむこと

- ケアマネージャー、ヘルパーなど介護従事者の労働条件改善策の解決に取り組み、居宅介護を支援します。

(3) 行政がとりくむこと

- 老年症候群とその予防および介護についての知識と理解を市民に広げます。
- 居宅介護の支援を要介護者毎の状況に応じるきめ細かなものとします。

2．居宅介護だけでは解決できない介護の増加に対処します。

(1) 市民、事業者等がとりくむこと

- 施設サービスのみならず、有料老人ホームなど居住系サービス等の評価の改善に取り組むと共に、より信頼性のある豊富な情報を提供します。

(2) 行政がとりくむこと

- 小規模多機能型居宅介護や各種有料老人ホームなどの整備や、グループホーム、通所・短期入所あるいは施設サービスの充実など介護サービス全体にわたり幅広い取組をします。